

前穂高へ東壁から初登はん

12.28
34.1

著氷にきりぬく北アルプス前穂高（標高三〇九〇）の東壁は昭和三十年岩壁会がナイロン・ザイルが切断して遭難したのを井上靖が「氷壁」に小説化して広く知られている。北に残されたこの未登はんコースを岐阜登山会のアルピニストらは雪崩を突いてきた四月初登はん成功、日本山岳史に一頁を飾った。一行は十日無事帰って来たが、この壮挙には羨ましい山男の友情物語が秘められている。

ヒラヤ遊歩を夢に馳せ、よりけ 阜高会、奥又白の沢から前穂高。しかし一昨半夏、女性ルビ 総 〓は寒大四年生が頂を目指し、岩壁登はんを続けてきた岐阜 高東壁の攻撃に全力を注いでい ニストの横山桂さん(当時二十)の前して落石に当たり即死した。



奥又白の根拠地から冰雪の前穂高主峰を望む

続いて昨年十月、攻撃の王座をナンバーにして松田辰夫(会)『損斐王末山嶽所勤務』が出版を前に交通事故で即死、二重の痛手を受けた。さらに昨年末から暖冬異常で雪崩の遭難が相つき、藤田公平会長らは慎重に再検討を行ったが亡き会員の弔い登はんをかねて決行することにした。攻撃メンバーは万一の事故を思つて妻帯者や婚約者は除き、若手の精鋭を慎重に人選、リーダーには熊田宗次(会)を副リーダーには高橋隆雄(会)をそれぞれ青木寿(会)尾野忠(会)神谷重文(会)の五人、とくにサポーター員として木村明男(会)木村みどり(会)二天崎を加え七人に決めた。

十一月に入ると食料百八十食分と運搬り道具など五十余食を根拠地の奥又白の池へ荷上げた。十二月十七日、一行は岐阜を発った。大きなリュックの中には松田君の形見のザイル、三ツ道員、ラッシュ(ガソリンコンロ)が大切にしまわれていた。聖蹟には横山さんのお父さんの葛西卯氏市議会議員も見送り還難よけのお機りを手渡すなどものものしい空気が、松本か

何度か雪崩の危険

岐登 阜会 友の吊い見事に果す

ら上高地、穂沢園を経て、三十日、奥又白の池に入った一行は、葛西氏のお機り手渡すの天

た。ここには福岡山岳連盟、一機大

学OB、千葉県後援山岳会、東京聖蹟会もキャンプを揃え、はからずも初登はんのツバせり台いとなった。高橋サブリーダーの報告によると一行は天みそかの三十一日未明、曇空を仰ぎ約三層の深雪を突いて攻撃を開始アタックは青木と神谷班に分れ四十ザイルで固く結び合った。この日は途中で大候が崩れ粉雪が水壁を流して見えなくなりなだれ、一橋パーティーは四百餘り雪崩れに流された。このため登はんを中止、元日は捜索に当たったが奇蹟的に遭難をまぬがれた。

これにひるまず三日午前二時半、雪十七度の放棄を突いて再び水壁の攻撃を開始、午後一時すぎ吹雪になったが、そのままハーケン(鉄クギ)を壁に打ちながら登はんを続けた。このとき福岡山岳連盟のパーティーは落石に足に当たって退却したが、その後行方が分らず遭難騒ぎが起きた。さらに後から続いてきた粉雪、パーティが登はんを苦しみだしたのでザイルをつなぎ、相ほけましながら夜十時、頂上直下の岩棚に全員よじ登った。

一行は猛吹雪の中でツエルト(簡易天幕)をかぶって夜明けを待った。翌四日午前七時すぎついに吹雪の別荘頂上に立ち力一はし手を握り合い成功を祝った。五日から七日までは福岡

- | | | | | |
|---------|------|-----|------------|-----------|
| 2. メンバー | (25) | 会社員 | 岐阜市朝日町五 | TEL⑨499 |
| リーダー | (23) | 公務員 | 栗野東 | 356 |
| サブリーダー | (23) | 会社員 | 金笠町4ノ5 | |
| | (23) | | 本荘三葉レオン | 新光案内③7151 |
| | (23) | | | |
| | (22) | | 稲葉郡福羽町東町 | |
| | (22) | | 岐阜市長森岩地 | |
| | (22) | | 金園町10 | |
| | (23) | | 大垣市神田町2ノ23 | 日本合成案内 |
| | (23) | | | |
| | (23) | | 大垣市寺内町2ノ19 | |

12.28
34.1
岳沢隊

山岳連パーティーの捜索を行ったが、これも何時的に助かったのが八日根拠地を放棄したという。

この成功のほか往來から往來にわたって高会大洞友七リ一ターら一行十一人のパーティーが北ア岳沢に根拠地を構築奥穂高、前穂高の攻撃に成功。これも劇的な成果をあげたので一同は横山さんの命日に当たる十四日夜、横山さんの墓前を参り、串い登はんの成功を祝った。